

## 平成29年 岐阜市障害者総合支援協議会 専門部会中間報告

## ◆第1回

日時	平成29年6月23日(金) 午後3:30~5:00	場所:ぎふメディアコスモス
テーマ	相談支援の連携について(医療関係)	
参加	医療機関7か所、相談支援事業所等23か所 合計37名	
議事内容	昨年度までの専門部会等の取り組みで医療機関と連携を図りたいという地域課題が抽出されていた。医療機関の相談先となる医療ソーシャルワーカーや精神保健福祉士と相談支援専門員が話す機会を持ち、顔の見える関係をつくることを目的として専門部会を開催。医療機関の現状や取り組み等、相談支援専門員の役割、現状や介護保険制度との違い等について相互の理解を深め、連携の必要性について意見交換をした。	
成果	医療機関と相談支援事業所が相互の役割等理解が深まった。障がい者に対して医療と障害福祉サービスを組み合わせて、支援していくことが重要であり、そのためにも情報共有していくことが必要であることを確認した。出席医療機関の相談窓口問い合わせ一覧を作成し、後日出席者に配布した。	

## ◆第2回

日時	平成29年7月20日(木) 午後3:30~5:00	
テーマ	障がい者の孤立化防止について	
参加	関係機関8か所、相談支援事業所等14か所 合計22名	
議事内容	平成26年度から協議を重ね、アンケート調査を経て、相談希望者へのアウトリーチを実施している。アンケート調査に返信のなかった方や、障がい福祉サービスの利用がなく、特に孤立化のリスクが高い方への対応方法について協議した。	
成果	再度アンケートを送付することとし、その様式は以前送付した物を簡素化し、具体例を示すなど案が示された。またアンケート回収後は関係機関と同行訪問等行えるよう、連携体制を取って対応していくことを確認した。(9月6日178名にアンケート再送付。9月末までに回収予定。)	

## ◆第3回

日時	平成29年8月22日(火) 午後3:30~5:00	
テーマ	保育所と障害児通所支援事業との連携	
参加	障害児通所支援事業所10か所、障害児相談支援事業所12か所、子ども保育課・岐阜市立保育所、子ども・若者総合支援センター 合計62名	
議事内容	児童発達支援と保育所等を併用する幼児が増加しており、お互いに連携して支援することが大切になってきている。特別な配慮と支援を要する幼児への支援について、児童発達支援事業所・センター、相談支援専門員と保育所が、それぞれの役割を確認するとともに支援の連携等を検討した。	
成果	子どもや保護者の支援を行う中で、各機関が連携することの大切さを改めて認識できた。各機関の役割などをまず知り、顔の見える関係づくりを通して、今後のより良い支援につなげていく大切さを確認しあうことができた。	

## ◆第4回

日時	平成29年9月4日(月) 午後3:30~5:00
テーマ	相談支援体制について
参加	関係機関14か所、相談支援事業所等18か所 市関係機関2か所 合計41名
議事内容	各関係機関等に相談支援事業所等の役割を再確認してもらった上で、グループワークにより各関係機関から市・委託・特定相談支援事業所の相談支援体制について意見をもらい、障害のある方やその家族にとって相談しやすい仕組みのあり方等を協議した。
成果	相談には生活、就労、経済、医療など様々な内容の相談があり、さらには障がい種別によっても支援方法が大きく変わるなど相談が複雑化している現状がある。さらには学校卒業後や介護保険への移行などライフステージごとの移り変わりのタイミングではより関係機関が連携を取りやすい環境が必要になっている。そのような多岐に渡る相談に対して、現在の相談支援体制の良い点や問題点、改善策などの意見が出され、本人や家族だけでなく地域や他分野の関係機関が相談しやすい体制について考える良い機会となった。

## ◆第5回

日時	平成29年9月15日(金) 午後3:30~5:00
テーマ	研修会「高次脳機能障がいのある人への支援について」
参加	障がい福祉サービス等事業所22か所、相談支援事業所等15か所、地域包括支援センター、障がい者就業・生活支援センター 合計53名
研修内容	講師:名古屋市総合リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援部 支援コーディネーター 川嶋 陽平 氏  高次脳機能障害についての概要や支援方法などを講義形式で講演を聞くほか、参加者が高次脳機能障害のある人の疑似体験をしたり、支援方法の寸劇の映像を見たりして、理解を深め、具体的な対応について学んだ。支援経験のない参加者からも「障がいについて理解が進んだ。具体的な対応が、とても参考になった」などの感想が多く寄せられた。